



## 「わっかない」で開業

宗谷医師会 理事  
こどもクリニックはぐ 院長  
伊坂 雅行

昨年11月、稚内市内に小児科クリニックを開院しました。稚内に来るまでは、愛知県や神奈川県内で勤務医として従事してきました。未熟児医療を中心に小児科医として、子どもたちやご両親とかかわってきましたが、その経験を生かして身近な家庭医としてかわりを持ってたらと思開院に至った次第です。

稚内に来て、すぐに北海道の天候の洗礼を受けました。学会や医師会の勉強会に出掛けるにも、天候の影響で戻ることができず、診療を休診にせざるを得ない経験も多くいたしました。こちらでの生活にもだいぶ慣れ、開院後半年の月日が過ぎようとしています。

開院後、多くの患者様に来院していただきましたが、すぐにインフルエンザや感染性腸炎、おたふくかぜ、水痘の流行を迎え、その対応に追われました。インフルエンザでは幼稚園や小学校などの学級閉鎖を至る所で認め、しばらく流行の終息を迎えるのに時間が掛かりました。しかし、インフルエンザの予防接種率は大変低く、感染が流行するのも当然の結果でした。

宗谷地域は、道内でも医療過疎が進んでいると伺っております。小児科医だけを考えても、市立病院に3名、開業医が当院以外に1件のみで計5名しかいません。他科の先生方に関しても、本当に少数の医師で日常の診療を行っているのが現状です。当医師会としても、医師の確保をいかにして行かかを念慮している訳ですが、果たしてそれだけの問題なのでしょうか？医師の確保について努力は必要とは思いますが、少ないなら少ないの対応をしていく必要もあると感じています。小児科だけで考えるなら、予防接種の接種率を上げるよう努力をし、また患者教育に目を向け、医療機関へのかかり方などを時間を掛けて指導していく努力が必要なのではないかと思います。そうすることで、無駄のない医療環境が作られるのでは？と思います。

まだそれでも半年、これから地道に地元の医療発展のために努力を惜しまず頑張っていく所存です。



東北  
～センチメンタルな旅～  
苫小牧市医師会 理事  
植苗病院 理事長  
片岡 昌哉

今年は連休の並びも悪く、当直にも阻まれて長い休みは取れなかったが、東北の観光が落ち込んだままだうことを耳にし、東北へ旅することにした。

震災後に心のケア活動として何度か足を運ばせていただいたり、日本精神科病院協会の関係で当直支援に行かせていただいたりして以来、彼の地が何かと心に留まるが多くなっている。あれだけの大地震が起これば現在進行形でさまざまな話題が日々報じられる中、多くの日本人が同じ思いであることだろう。北海道に来てからやや身近に感じるようにはなったものの、これまで東北にそれほどの思い入れはなかったのだが。

3日朝当直明け。寒い一日を家の中でだらだら過ごし、苫小牧港23時59分発（これは何らかの理由でぎりぎりに出るのでしょうね。従業員の給料の関係？）のフェリーに車なしで乗り込む。二等寝台はそれぞれ指定されており、特に急いで行く必要もないので楽ちん。連休中で車を港に駐車するスペースがなかなか見つけられず焦りましたが。カーテンを引くと個室で前日の当直の疲れもあって早々に入眠。寝心地全く問題なし。

翌朝7時半八戸港上陸。車で一路南へ。泊まる所も確保せず何とかなるだろうと走り出す。目標は以前行った岩手県宮古市、山田町、陸前高田市、宮城県気仙沼市に行くことと、宮古市でお世話になったお寿司屋さん（大寿司 宮古市西町2-1-8 0193-62-7417 超おすすめ！）に寄れば良いな～というくらい。まずは話題の久慈へ。朝市が港で開かれており、そちらでかなり美味しい焼きいかをほお張る。う、うまい。食堂のオープン記念の行事として餅まきがあるというので、それまで待ってお餅をオヤツとしてゲット。南へ向かい、宮古市で無事お寿司屋に入ることができ至福の昼食。前日に職場の同僚も来ていたことを確認。東北が結ぶ縁。そこでツイッターを通して、たまたま三陸に来ていた先輩から連絡が！先輩は釜石に泊まるこのことでこちらから釜石に向かう。釜石ではちょっと苦労したが何とか宿を確保。三陸地方を南と北から進んで釜石の居酒屋でセンチメンタルな出会いを満喫したのであった。